

高等学校生徒会フォーラム

1 事業のねらい

新生徒会役員が集まり、他校との情報交換やワークショップなどをおして、リーダーとしての資質向上と、コロナ禍での生徒会活動の持続化・活性化を図る。

2 事業の概要

- 期日 R2.11.7(土)~8(日) 1泊2日
- 対象 高校の新生徒会役員および生徒会担当教諭
- 人数 4校 18名
- 場所 ネイパル森
- 協力 サルバション有紀氏 (名古屋女子大学中学校高等学校教諭)

3 プログラム

	9:00		11:00	12:00	13:00	15:00	17:30	19:00	20:00	22:00		
1日目						開会式	演習① 各校の 実践交流	演習② Zoom 体験	夕食	演習③ ホワイトボード・ミーティング体験	入浴など	就寝
2日目	起床	朝食	演習④ ワークショップ	発表交流	昼食	発表交流	開会式					

4 ねらいを達成するための活動の工夫

- オンラインによる話し合いの方法を実践的に学ぶ機会の提供
 - ・「ホワイトボード・ミーティング®」により、コロナ禍でもできる効果的な話し合いの方法を身に付けることができるようにした。
 - ・相手を勇気づける話の聴き方や話し合いの深め方、2~3人のグループによるディスカッションのほか、自分たちの学校の課題を洗い出し、それを解決するためのアイデアを分類・整理しながら結論をまとめるなど、生徒会活動の活性化につながるようにした。

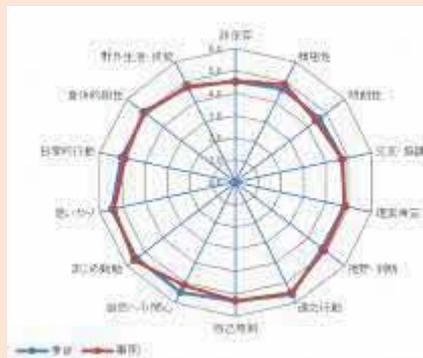


効果的な話し合いの方法を練習



生徒会活動の活性化に向けて

5 事業の評価



- IKR 調査による変化
 - ・「日常的行動」「明朗性」が 0.1 ポイント向上
 - ・「交友・協調」「思いやり」は変化なし
- 参加者の声
 - ・学んだことを、今後自分たちで活動を生み出す時に使いたい。(生徒)
 - ・話し合いに一手間加えることでよりよいアイデアが生まれたことがよかった。(教師)

6 ねらいを踏まえた成果と課題

- 参加者アンケートでは、これからの活動に「ホワイトボード・ミーティング®」を取り入れてみたいという回答が8割以上だったことから、生徒会活動の活性化のために有効なツールとして活用が期待できる。
- 「交友・協調」「思いやり」に変化がなかったことから、コロナ禍での活動においても、他校の生徒との交流を促すための工夫や配慮が必要である。



企画のポイント

話し合い活動で役立つコミュニケーションツールの積極的な活用

高等学校 生徒会フォーラム

1 事業のねらい

高等学校の生徒会役員等が集まり、実践的な話し合いの方法や課題解決の手法の体験と交流を通して、リーダーとしての資質の向上や生徒会活動の活性化を図る。

2 事業の概要

- 期日 R2.12.5(土)~6(日) 1泊2日
- 対象 高校の生徒会役員および生徒会担当教諭
- 人数 3校20名
- 場所 ネイパル北見
- 協力 (株)ホームセンター坂本、アチーブジャパン(株)
(株)Lutena、(株)ロジカル

3 プログラム

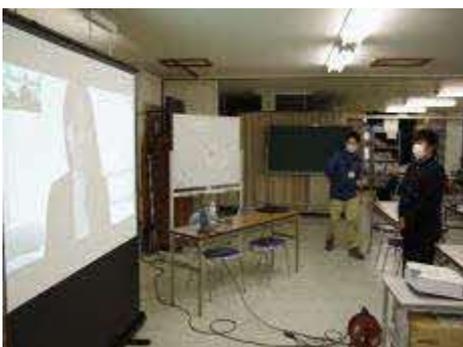
日時	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
12/5 (土)							受付 11:30~12:30	受付	開 会 式	講 演	質 問 タ イ ム	演 習①	休 憩	夕 食 (食 堂)	交 流 会	入 浴・就 寝 準 備	就 寝
12/6 (日)	起 床	朝 食 (食 堂)	清 掃 点 検	演 習②	全 体 発 表		昼 食 (食 堂)	ふ り か え り	閉 会 式	解 散 予 定 14:00							

4 ねらいを達成するための活動の工夫

- 若手経営者の経験談から高校生が話し合いの方法を実践的に学ぶ
 - ・若手(20~40代)の会社経営者を講師とし、組織運営やコミュニケーションに関する注意点などについて自身の経験を語っていただくことで、高校生が生徒会運営に生かすための実践的な手法を獲得できるようにした。
 - ・地元企業だけではなく、札幌の経営者にもリモートで参加していただき、参加者がより広い観点で考えられるようにした。
 - ・演習では、参加者が講師から意見の出し方やまとめ方について助言を受けながら、自分たちの学校の課題を洗い出し、その解決方法について考察を深められるようにした。

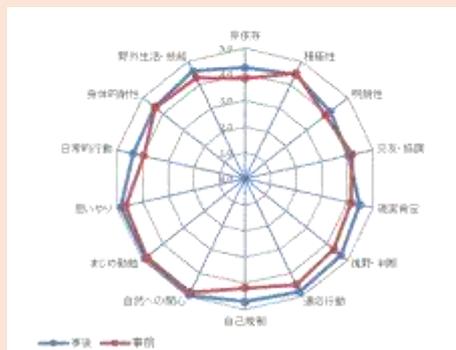


若手経営者から学ぶ



リモート講演で多様な考えを知る

5 事業の評価



- IKR 調査による変化
 - ・「自己規制」が0.5P、「非依存性」が0.4P向上
 - ・「交友・協調」「思いやり」は大きな変化なし
- 参加者の声
 - ・今回学んだことを今後の学校生活に生かしたい。
 - ・苦手とするコミュニケーションについての話があり、勉強になった。

6 ねらいを踏まえた成果と課題

- 「自己規制」「非依存」が向上していることから、話し合いやまとめ方の手法を学んだことで、話し合いの目的や雰囲気を踏まえた上で、自分の言うべきことをしっかり言えるという参加者が増えたと考えられる。
- 「交友・協調」「思いやり」に変化がなかったことから、コロナ禍を前提とした上で、参加者同士の交流の機会の設定を工夫する必要があった。



企画のポイント

高校生が講師と交流しながら、話し合いやまとめ方の具体的な手法を学習